

〔文献紹介〕 松本歯学 31 : 167~182, 2005

key words : 野口英世 — 伝記 — 第6報

松本歯科大学所蔵の野口英世の伝記 (第6報)

矢ヶ崎 康

松本歯科大学 創立者・理事長・名誉教授

枝 重夫

松本歯科大学 評議員・名誉教授

A Collection of the Biographies of Dr. Hideyo Noguchi
in Matsumoto Dental University (6th report)

YASUSHI YAGASAKI

The Founder, the Chief Director and Honorary Professor of Matsumoto Dental University

SHIGEO EDA

Councilor and Honorary Professor of Matsumoto Dental University

Summary

On November 1, 2004, new paper money of 1,000 yen with an effigy of Dr. Hideyo Noguchi was issued as the first such honor to a person from the medical world in Japan. Previously we presented 254 publications regarding biographies of Dr. Hideyo Noguchi and persons related to him to Matsumoto Shigaku (13 : 1~34, 1987 ; 15 : 217~231, 1987 ; 20 : 80~99, 1994 ; 23 : 194~210, 1997 ; 26 : 137~145, 2000). In this paper, 37 additional books and journals are noted. Among these, the following 3 books are thought to be rare and interesting ; Hata, K. : Hideyo Noguchi, pp.1~77. Hata Hospital, Ujiyamada, 1931 ; Hirano, K. : Hideyo Noguchi, pp.1~212. Sankyo-shoin, Tokyo, 1940 ; Ikeda, N. and Tanaka, R. : Hideyo Noguchi, a Picture book of Koudansha, pp.1~52. Dainippon-yubenkai-Kodansha, Tokyo, 1941. In grand total, 291 publications have been reported over the past 18 years. The collection will be a possession of Matsumoto Dental University Library.

はじめに

野口英世および彼に関係がある人物の伝記類について、著者らは、第1報(1987年)から第5報(2000年)において、254種の出版物を紹介した。

このたび新千円札に医学界から初めて野口英世が選ばれて2004年11月1日に発行された(写真1)。写真2のパンフレットは、野口英世が千円札に登場することが決定したことを記念して、2002年9月から福島県猪苗代町にある野口英世記念館で開



写真1：2004年11月1日に発行された新千円札
(A-A 券には人気がある)

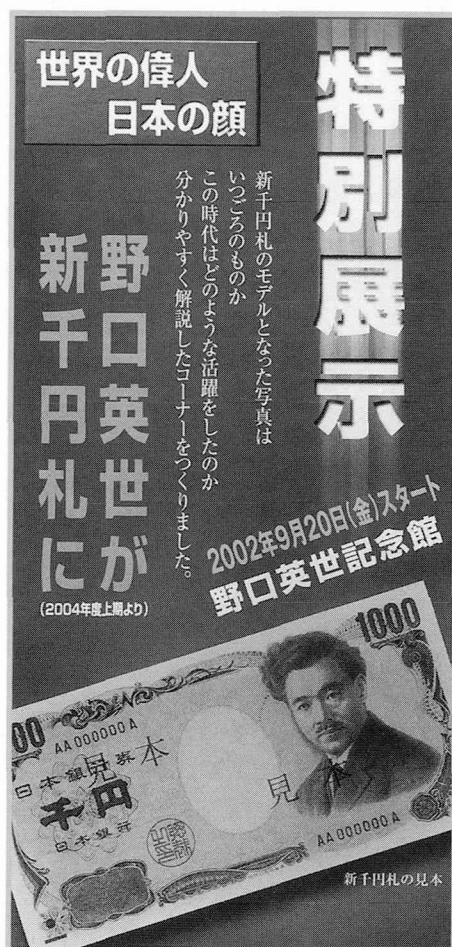


写真2：2002年9月から野口英世記念館（猪苗代町）で開かれた特別展示用のパンフレット

催された「特別展示」用のものである。これには、“新千円札のモデルとなった写真は、黄熱病研究のため大正7年（1918年）、エクアドルに遠征したときに撮った写真です。”と記されている。また2004年10月31日から1週間、東京歯科大学水道橋校舎において「野口英世と東京歯科大学展」が開かれ、その後、その記録「野口英世と東京歯科大学」も出版された（後記）。さらに千円札に

選ばれたためか、野口英世の伝記が相次いで出版されている。そこでこれらの出版物について新たに入手できた古典と共に、第6報として発表する次第である。前回と同様に、記載は発行順とし、文献番号と図番号は第5報の継続とする。また野口英世の葉書やテレホンカードも紹介したい。

野口英世関連の伝記類

256) 科学知識、8巻7号、65～83頁には、“野口博士追悼”記事が掲載されている（図209）。本誌は、1928年（昭和3年）7月1日に発行されており、これは野口の5月21日死去のわずか40日後で、歯科学報の“野口英世博士追悼記念号”（第1報の1）と図6で紹介済）より1ヵ月も早く、しかも通俗科学雑誌に掲載されたことでも重要である。そこで著者らは長期間探索した末にやっと入手できたものである。追悼記事の表題は以下の通りである。まず頁なしで表に写真版：研究室における野口英世博士（図210）、裏に凸版：壮烈なる意気を示せる野口博士の書簡が印刷されたアート紙が挿入されている。前者は、第5報の237)で紹介した写真（図194）と同じもので、そこに記



図209：科学知識8巻7号（1928）の表紙



図210：1927年5月に兩宮博士に贈られた署名入り写真

されている“To Doctor Amemiya”は、兩宮育作博士のことであった（後記）。宮島幹之助：医学博士・理学博士 野口英世君逝く（65頁），同氏：野口英世博士（略歴，業績，青年時代，渡米前後，逸話，世界の同情）（66～75頁），藤島太麻男：上京前後の野口博士（76～79頁），三宅驥一：野口博士の思ひ出（80～81頁），兩宮育作：野口博士をロックフェラー研究所に訪ねて（88～83頁，兩宮が自分の写真機で野口を撮ろうとしたら，最近撮った好いのあるから1枚あげようと

いって机の抽出しから取り出してくれた。）。

257) 科学知識，8巻8号，口絵（写真版）に故野口英世博士追悼記念会（図211）があり，77頁に同追悼記念会の詳細が記されている。これによると，第1報の3) 故野口博士母堂（図8）は，この記念会に入場する際に手渡されたものであった。したがって発行日は記されていないが，昭和3年6月29日ということになる。

258) 宮川米次：野口博士の学勲。東京朝日新聞社学芸部編：学会餘談 第2編，205～210頁。興学会出版部，東京，1928（図212）。この書物は，朝日新聞に掲載された記事の中から学会関連のものを選んで収録したものである。記事の最後に（昭和三・五月）とあるので，5月下旬に出たものと思われる。縮刷版ではなく成書になっていたため，比較的容易に読むことができた。追悼記事としては最初の方だし，長くもないので，1頁にまとめて再録することにした。

259) 畑 嘉聞：野口英世博士の面影。77頁。畑病院，宇治山田市，1931（図213）。自費出版。済生学舎の同窓生である著者が1918年（大正7年）に渡米，ニューヨークに滞在してポスト・グラジュエートで勉学した約1年間，野口との親交に

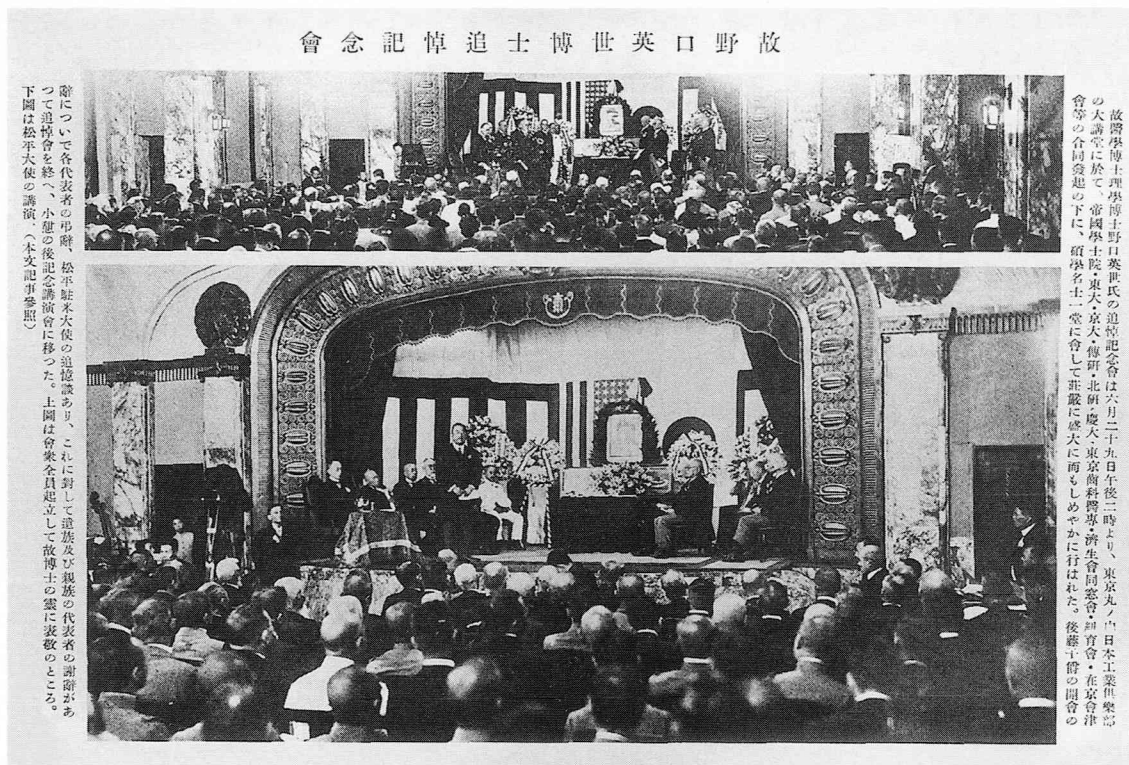


図211：科学知識8巻8号（1928）の口絵写真

野口博士の學勳

東京帝大教授 宮川 米 次

我が醫界で世界的の人物というたら、二、三に止るまいが、その内でも先づ第一に指を屈せられるのは、吾が野口英世博士であらう。それだけ君には多くの學績がある。誠に同君の一生を見るに可なりとて可ならざるは無し。類で、指を染めた研究事項には必ず大なり小なりの新事實を發表して居る。従つてその業績は驚くばかり多い。近年は毎年一個位のこれはと思ふやうな報告を出して居る。一部の米人はこれを評してツウマツチだと羨んで居る位である。かういふ風であるから、君の發表してゐる業績が、總て金科玉條とはいへないやうな所もあるが、しかしなんというても動かすことの出来ぬ大発見が二、三に止まらないやうに思ふ。これが君をして世界的たらしめ、何人にも君の業績をいやでも讀破せしめた偉さである。このやうな次第だから君の業績の一端でもこゝにいふことは中々に至難のことだが、然し二、三の特に重要だと思ふ発見を紹介して見よう。

君の専門は、細菌血清學だが、就中スピロヘータに關するものが多い。彼の梅毒の病原體に關する研究は一寸何人にも企及することが出来ない位、獨創的のものである。即ちシャウデン、ホフマン氏等によつて発見せられたトレポネマ、パリズムなるものが、我野口博士の考案になる獨特の培養基によつて純粹培養することが出来、然もそれを用ゐて動物實驗に成功し、梅毒の病原が、本スピロヘータであることに、學術的に確證を與へたのである。あの夾雜した梅毒の多い人間の初期の硬結病竈から得た材料で、色々の人が純粹培養をなさうと企てたが、常に夾雜菌の爲に目的を達することが出来なかつたか、君はこの夾雜菌を除くために濾過法を案出し、スピロヘータは善く濾過性であるといふ新事實を見出した。

これと同時に君の考案した所謂野口式培養基なるものは暖水に寒天を混じこれに生きた腎臓片の一片を投入したもので、今日に於てはスピロヘータの培養以外に色々のスピロヘータ及び細菌の培養に應用せられて、非常な効果を擧げつゝある。これ等の業績は一九一一年のことであるが、これと殆んど時を同じうして、麻痺狂及び脊髄癱瘓及び脊髄を精菌に検査して、梅毒のスピロヘータを発見し、本病の原因は多年學界の謎であつたのが、確實に梅毒性のものであることを見出し、その治療方針を決定し、今日に於ては色々の人々によつて、中樞神經の驅癱瘓法たる一大問題が研究せられて大に見るべき業績が發表せられつゝあるが、この研究の端緒を爲したのは誠に同君であつた。然かもこの兩種の大発見は世界の學界に異常なる衝動を與へその所見に異論を挾む者がないでもなかつたが、君はその業績を携へて西歐に渡り、又吾が日本にも來て親しくその批判を乞ふの態度にいで尙請はるゝまゝに君の手になる研究標本を分與して、その承認を求めたので比較的容易にこの業績は世界の承認を得るに至つたのである。

その他尙同氏の業績中で顯著なものは天然痘及びトラホームに關するものである。天然痘については、その病原體を兎の睾丸に接種して特有なる病變が起き、これを土臺として研究の歩を進めて、一種の病原體を発見して居る。尙氏はその師フレキシネル氏と共にニューヨークに脊髄前角炎の一大流行があつた時に色々の巧妙な實驗をして、その病原體を發表して居る。トラホームの研究は、米國でもつとも濃厚に本病が流行してゐる地方に出張して色々の實驗をなし、且つサルに本病を起すことが出来、こゝに本病の病原體と思はるゝものを培養し、動物實驗もし、廣範な成績を發表して居る。その他近年に於ては、彼のオーロヤ熱の研究、病原體の発見である。これは南米の山間、リマよりオーロヤに通ずる地のリマック地方にある特種の慢性傳染病で、これに罹ると皮膚に潰瘍が出来、同時に内臓に色々の變化が來て發熱し、貧血して終に死の轉歸をとるやうになる恐ろしい病氣で、その地方では非常に怖れられて居るものである。

最後に君の生命を奪ふたといはれる黃熱に就いていさゝか記して見たい。本病は西インド諸島、キューバ、ハイチ、英領ギアナ、メキシコ、エクアドル、北米の一部及び南方アフリカ等に見られる、惡性のワイルス氏病のやうなもので突然高熱が出て黄膽があり色々の所へ出血し二週間位で病者の半數は死ぬ病氣で、蚊によつて傳播せられることは、古來の研究によつて、明瞭であり、又米國がキューバを手にいれると共に徹底的にイワウの燻蒸をして蚊を撲滅して、ハバナ地方からこの惡疫を絶つたといはれて居る。

我が野口博士は、ワイルス氏病の病原體が、稻田博士によつて報告せられるや、直に南米に赴いて、精細なる研究を黃熱に施して、こゝに一種のスピロヘータを発見した。それはワイルス氏病のそれに酷似して居るが、同氏のいふ所によると血清學的所見に相違があり、この兩種の病氣に類似性があると共に又病原體にも類似の所があるといふことを發表したのは一九一八年今より丁度十年前のことである。その後この發表は色々の學者によつて追試せられ、一部の學者は氏の説を承認して居るが、又一部の人はこれに賛成を發表して居ない。偶々南亞に本病の流行あることを報告せられてから、佛國からはブチー、ドイツからはクラウスその他の人々が出張し、米國からは、我が野口博士が遙々渡航してその研究に従事して居たのであるが不幸にして、本病のために終に犠牲となつたのである。

これを聞くと、彼の傳染力の烈しい發疹チフスの研究にポーランドへ出張して終に彼の地に倒れたドイツの研究がプロセーキの古事を憶ひ、尙、當時黃熱研究隊として米政府よりキューバに派遣せられたリード、ラゼアル、カロール、アグラモンドの一行四名はいづれも本病に冒され三名はために倒れたといふ事實を憶ふ時眞に世界的醫學研究が如何に獻身的であるかを裏書するものであると思ふ。私は君の死を聞き誠に人類の一大損失であると思つて、こゝにいさゝか君の偉大な業績をしるので、追悼の意を表したいのである。（昭和三・五月）

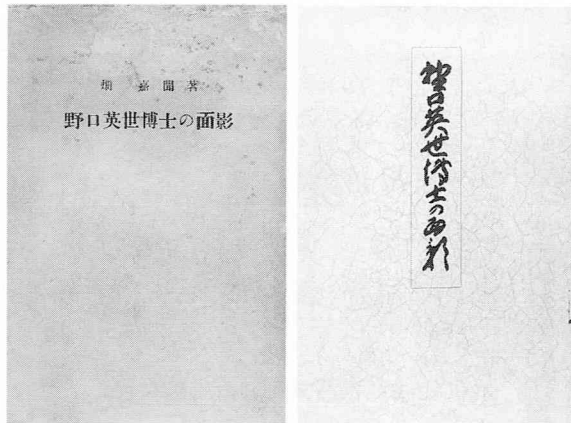


図213：畑 嘉間：野口英世博士の面影，自費出版，1931。
左：カバー 右：表紙



図214：平野啓司：野口英世，三教書院，1940

ついて日記風に詳細に書かれていて興味深い。

260) 佐藤清明：蚊の伝へる病の色々—野口英世博士の功業。博物科叢話，教育参考，125～128頁。文教書院，東京，1932。野口が黄熱病の病原体を1918年に発見し，レプトスピラ・イクテロイデスとしたとある。

261) 平野啓司：野口英世。212頁。三教書院，東京，1940（図214）。「偉人叢書12」である。自序に，奥村鶴吉，小泉 丹，エックスタイン及び他の二三氏の好著を参考にして書いたとある。な



図215：田中 良（絵）・池田宣政（文）：野口英世，講談社，1941



図216：久保 喬：ひらかな野口英世，金の星社，1960

お見返しに著者の筆書き署名がある。

262) 田中 良（絵）・池田宣政（文）：野口英



図217：奈良島知堂：この母この子 野口英世の生立ち，栄和出版，1975

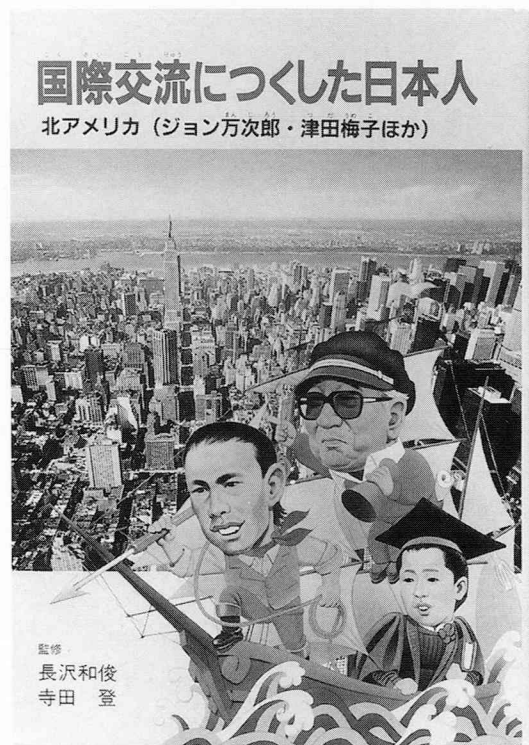


図219：永沢和俊・寺田 登（監修）：国際交流につくした日本人 北アメリカ，くもん出版，1991

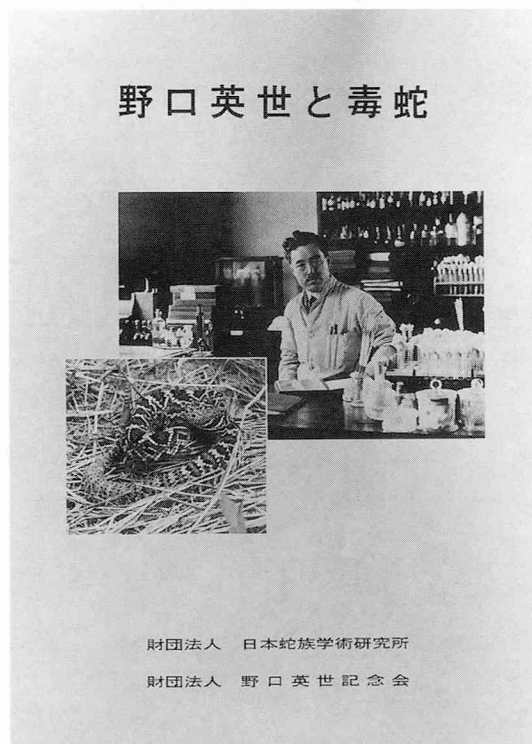


図218：鳥羽通久：野口英世と毒蛇，野口英世記念会，1990

世，52頁，大日本雄弁会講談社，東京，1941（図215）。毎月4回の発行で，本書は1月1日付けの講談社の絵本4巻1号である。戦前の「講談社の

絵本」は有名であったが，本書の絵も素晴らしい。4～5頁に野口少年の“さかなうり”の絵が載っている。

263) 久保 喬：ひらかな野口英世，200頁，金の星社，東京，1960（図216）。小学校低学年用で表題のようにほとんどが「ひらがな」で書かれており，約80%は渡米前の話である。本書は著者のものだったようで，20～25頁にある“清作のどじょう売り”のところに赤色鉛筆で大きくバツ印が書かれていて（この話は誤りと気が付いたためか），それ以降の頁も朱で6頁分減らされ最後の頁が194になっている。ただし現在のところ本書の改訂版を確認していない。

264) 奈良島知堂：この母この子 野口英世の生立ち，121頁，栄和出版部，東京，1975（図217）。第4報の215)で紹介した同じ著者の「母とともに 野口英世の生涯」の姉妹編といえるもので，同じく「生誕百年記念」出版である。PTA 連合会会長，小・中学校長会会長などの推薦を受けて，かなり読まれたようである。

265) 市場安泰男：野口英世はほんとうに黄熱病の病原体を発見したか。素顔の科学史99の謎，教科書にもない真実のドラマ，36～37頁，産報



図220：千葉省三：病原体をつきとめた人びと。あかね書房，1994

ジャーナル，東京，1977。「産報ジャーナル B-130」である。略歴ながら比較的忠実である。

266) 野口英世記念館ガイドブック～博士その生涯。33頁。同館，猪苗代，1989。野口の生涯が多くの写真や絵などで要領よく紹介されている。

267) 鳥羽通久：野口英世と毒蛇。16頁。日本蛇族学研究所，藪塚本町（群馬）；野口英世記念会，東京，1990（図218）。1990年7月20日～8月31日に群馬県新田郡藪塚本町にある日本蛇族学研究所資料館で開催された「野口英世と毒蛇展」の解説

書である。通常の伝記では見られない写真や記事がある。

268) 桜井信夫（文）・小松 修（絵）：野口英世。永沢和俊・寺田 登（監修）：国際交流につくした日本人 北アメリカ，123～146頁。くもん出版，東京，1991（図219）。彼の他にジョン万次郎，津田梅子，フランク安田，黒沢 明，江崎玲於奈，利根川 進らが掲載されている。

269) 千葉省三：野口英世 黄熱病とたたかい，黄熱病に倒れる。おもしろ科学史ライブラリー [人体・医学] 病原体をつきとめた人びと，22～37頁。あかね書房，東京，1994（図220）。劇画，渡部鼎は出てくるが血脇守之助はない。表紙にもなっている野口のポーズは有名で，著者らのシリーズでも写真や絵になった本と切手は次のとおり多数ある。第1報の図70，図96，第3報の図154，図155，第4報の図186，図187，第5報の図208の7種。しかし右手に持っている器具は写真で見る限り，正しくは台付きのメートルグラスと思われるのに，絵では試験管のことがある。ちなみに有名な東京上野公園の銅像も試験管である。ところが本書の表紙絵では，これらとは全く異なる奇妙な器具になっている（図220右を参照されたい）。



図221：野口英世記念館（編）：小林 栄。野口英世記念会，1998（帯）



図222：すたじお青い鳥：シカ物語。野口英世記念会・同記念館，2001

270)野口英世記念館（編）：写真でつづる野口英世の恩師・地方教育の先覚者 小林 栄. 96頁. 野口英世記念会, 東京, 1998 (図221). 書名の通り小林 栄のアルバムで, 当然のことながら野口の写真も多く掲載されている. 15頁に小林とアメリカ人ヘンリー・ルミスと一緒に写っている写真とルミスが撮影した猪苗代小学校の様子の写真4枚がある. Henry Loomis は宣教師として来日し横浜に住んでいた. 同じく横浜に住んでいた自然科学者のH. J. S. Pryer (プライヤー)の影響で蝶の採集に興味をもつようになり, 1887年に千葉県鹿野山で新種を発見した. これがルミスシジミである. 小林とルミスの一緒の写真があるのを初めて知って興味深く感じた.

271) Hideyo Noguchi Memorial Hall (ed.): Hideyo Noguchi, pp.1~32. The Hideyo Noguchi Memorial Association, Tokyo. 2000. 1940年に同所から同名で英文の伝記が出版されているが(第1報の13)で紹介済, それとは全く違うものでカラー写真も多く挿入されている.

272)偉人探訪倶楽部：野口英世新聞. 杉原一昭(監修)：こども偉人新聞 学校の先生がすすめる偉人85人, 34~36頁. 世界文化社, 東京, 2000. 表紙にアインシュタイン, 野口英世, エジソンの顔写真が載っている.

273)すたじお青い鳥：まんがシカ物語 野口英世の母. 184頁. 野口英世記念会, 東京; 野口英世記念館, 猪苗代町. 2001 (図222). 最後に「野口シカ写真集」16頁が付いている.

274)濱野 修：野口英世言行録. 98頁. 三省

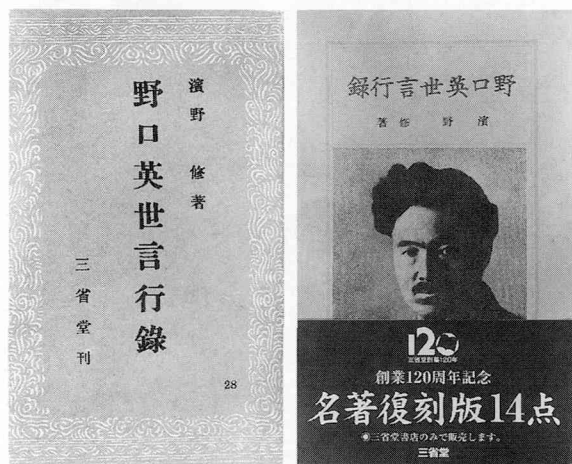


図223：浜野 修：野口英世言行録. 三省堂
左：元版, 1939 右：復刻版, 2001 (帯)



図224：西本鶏介：光をかかげた人たち1. ポプラ社, 2001(帯)

堂, 東京. 2001 (図223右). 1939年に発行されたもの(第4報の204)と図165参照, 図223左)が, 創業120周年記念の「名著復刻版14点」に選ばれたものである. 老舗の三省堂からは多数の書籍が出版されているだろうが, それらの中から, わずか14点に入選したことはすばらしい. 表紙には野口の写真が入り右からの横書きになって新しいが, 扉や本文などは完全復刻である. なお本書は帯に記されているように, 三省堂書店だけで販売されたが, 著者の一人(枝)は, 偶然その時期に上京する機会があり, 幸運にも神田の本店で発見し購入することができた.

275)吉原賢二：野口英世. 科学に魅せられた日本人 ニッポニウムからゲノム, 光通信まで, 94~102頁. 岩波書店, 東京. 2001. 岩波ジュニア新書372である. カバーに仁科芳雄, 鈴木梅太郎とともに野口の肖像の切り絵がある. その他, 小川正孝, 北里柴三郎, 高峰譲吉, 大賀一郎, 今西錦司ら計11人が取り上げられている.

276)西本鶏介(編・著)：野口英世. 心を育てる偉人のお話 光をかかげた人たち 1, 8~13頁. ポプラ社, 東京. 2001 (図224). 子供向けの本なので野口の少年時代のことが書かれている.



図225：童夢（編）：心をそだてるはじめての伝記101人。
ポプラ社，2001（矢印は野口英世）

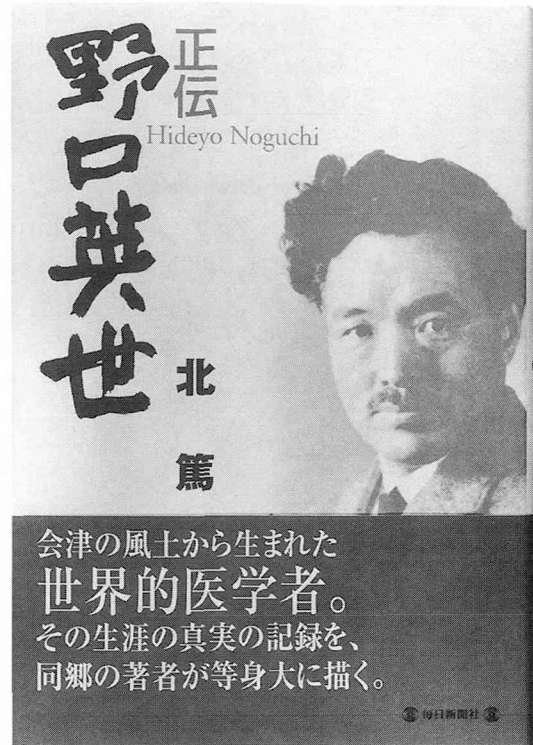


図226：北 篤：正伝 野口英世，毎日新聞社，2003
（カバー・帯）

外国人を含め29人が掲載されており，野口が最初に登場する。

277) 間所ひさこ（文）・佐竹美保（絵）：くるしくてもきぼうをすてなかった野口英世。童夢（編）：心をそだてるはじめての伝記101人，114～121頁。講談社，東京，2001（図225）。あまり似ていないが表紙の下方に野口の絵がある（矢印）。

278) 山本厚子：幻の妻メリー・D・ノグチ；同氏：ラテン・アメリカで語り伝えられる指導者ノグチ「野口英世伝」の欠落部分，“今ふたたび野口英世”編集委員会：別冊 今ふたたび 野口英世，1～38；39～78頁。同会，横浜。第5報の253) 今ふたたび 野口英世（図205）に収録できなかった2編を別冊として発行したものである。表紙のデザインも本冊とほぼ同じである。

279) 野口英世記念会（編）：日本が生んだ世界の医学者 野口英世，76頁。野口英世記念会，東京，2002。本書の初版は1985年に発行され（第2報の139）と図104に記載），その裏表紙にエクアドルで発行された野口英世の切手だけが載っていたが，この2002年版では，ガーナで発行された野口の切手（第3報の図160と第5報の図207で紹介）が，追加されている。

280) 立川昭二：病いの人間史，明治・大正・昭和，229～247。文藝春秋，2002。「文春文庫た



図227：小和田哲男（監修）：日本史人物55人のひみつ。
学習研究社，2003（矢印は野口英世）

521」である。ハードカバーの新潮社版（第3報

の179)と図141で紹介)の文庫版である。「文庫版あとがき」の後の方に“たまたま近く紙幣に樋口一葉と野口英世が登場するという”と書かれており、帯に「一葉、子規、野口英世……」と、収録されている10人の中から3人の名前がある。

281)北 篤：正伝 野口英世，300頁，毎日新聞社，東京，2003（図226）。初版は1980年に翠楊社から発行されている（第1報の56）と図57に記載済）。表紙は変っているものの全く同じものが，異なる出版社から発行されたのにそれを明記せず，著者略歴のところに（初版 翠楊社）と記されているのみである。

282)井出孫六：野口英世の青春—未発表書簡を読んで。図書，647号，2～5頁，2003。冒頭に「ながはま」（第2報の“あとがき”図111に説明あり）と「今ふたび 野口英世」（第5報の253）と図205参照）の紹介があり，新しく発見された野口が高等小学校時代の恩師小林先生に宛てた手紙7通の解説がある。

283)小和田哲男（監修）・甲斐謙二他（まんが）：梅毒や黄熱病を研究した野口英世。日本史人物55人のひみつ，132～134頁，学習研究社，東京，2003（図227）。表紙に野口の絵がある（矢印）。

284)中島健志（画）・すぎたとおる（作）・関山英夫（監修）：黄熱病の根絶に尽くした医学者



図229：目でみる野口英世記念館，日本図書センター，2003（ケース）



図228：中島健志（絵）：野口英世，講談社，2003（帯）



図230：麻生 弥：マンガ野口英世，歴史春秋社，2003（カバー・帯）

野口英世, 143頁, 講談社・コミックス, 東京, 2003 (図228). アトムポケット人物館全20巻の第20巻である. 表紙絵の右手に持っているガラス器具は正しい.

285)「目でみる人物記念館」刊行会 (編): 目でみる野口英世記念館. 全2巻・各巻64頁. 日本図書センター, 東京, 2003 (図229). 第1巻は「野口英世の一生」, 第2巻は「野口英世の足跡をたずねて」である. 貴重な写真とイラストで構成されている. 第1巻58頁に, “2004年より新しい千円札の肖像画の原図として使われることになった” 顔写真が示されている. 本体価格12,000円は高価である.

286) 麻生 弥: マンガ野口英世, 185頁. 歴史春秋社, 会津若松, 2003 (図230). 血脇守之助が夏期診療のため会津若松の渡部医院を訪れるところから始まるところや血脇が一人称なのも面白い. 帯に“新千円札の顔ドクターノグチの生涯を瑞々しく描く”とある.

287) (斎川正郎): 初代会長 松原 廣先生. 長野県松本市歯科医師会創立100周年記念事業 会史編纂特別委員会 (編): 松本歯科医師会100年史, 125~144頁, 2003 (図231). 表題のとおり松



図232: 松本市北深志一丁目にある近藤次繁博士の胸像

原は松本歯科医師会の初代会長であるが, 彼の履歴解説の中に「野口清作の左手再手術 松原廣先生の開智学校同級生近藤次繁博士執刀の成功. 近藤次繁先生のこの手術に, 必ずや松原先生の関わりがあったのではないか?」という記事がある. 血脇の紹介によって, 近藤は野口の左手の再手術を行った. このとき野口は「大学の学用患者」としてその費用を減免されている. それは高山歯科医学院講師として血脇の下で勤務していた松原が仲介をしたからではないかという. なぜなら松原と近藤は長野県松本町 (現在の松本市) の第一番小学開智学校の同級生だったからである. 近藤はその後, 松本市営病院 (現在の信州大学医学部附属病院の前身) の設立・運営にも尽力したので, 彼の胸像は, 生誕の地, 松本市北深志一丁目の児童遊園地にある (図232).

288) 高添一郎: 野口英世博士剖検所見記録ノート. 日本医事新報, 4156号, 43~46頁, 2003. W. A. Young 博士によって野口の遺体が病理解剖され, その肉眼所見が記録されている古いノートの修復作業の経緯について書かれている.

289) 小暮葉満子・田崎公司 (編): 野口英世

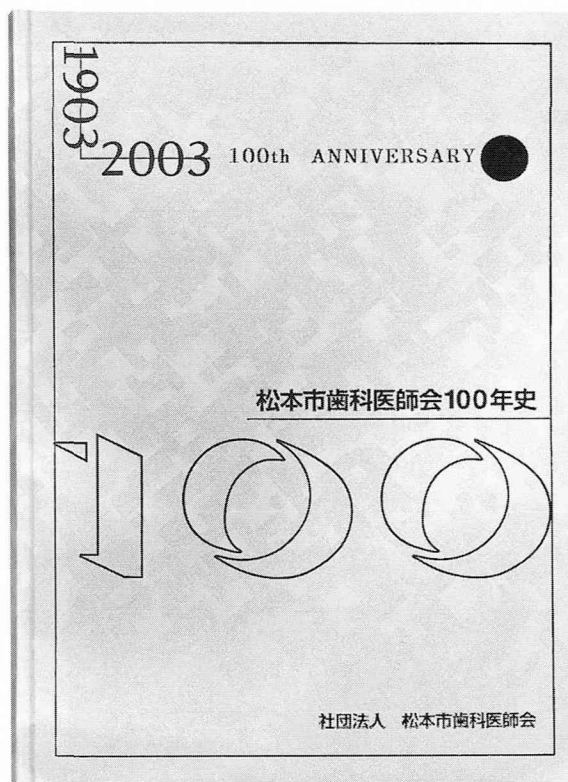


図231: 松本市歯科医師会100年史. 同会, 2003



図223：小暮葉満子・田崎公司（編）：野口英世 21世紀に生きる。日本経済評論社，2004（カバー・帯）



図234：山本厚子：野口英世は眠らない。総合社，2004（カバー・帯）

21世紀に生きる，425頁。日本経済評論社，東京。2004（図233）。第5報の253）と図205で紹介した「今ふたたび 野口英世」の新装改定版で書名や

出版社も変った。序文として，“井出孫六：「野口英世—21世紀に生きる」によせて”がある。本書の帯にも“今秋より新千円札となり”とある。

290) 山本厚子：野口英世は眠らない—**Lived and died for Humanity**. 284頁。総合社，東京。2004（図234）。「プロローグ」の中に“200冊以上ある野口英世に関する本の記述には，ラテンアメリカでの活躍ぶりについてはほとんど語られていない。”とある。さらに“2002年4月，久しぶりにニューヨークに行き，野口とメリーの墓参りをして帰国した私を待っていたのは，「野口の肖像が千円札になる」というニュースだった。”とも記されている。だから本書では，パナマ，エクアドル，メキシコ，ペルー，ブラジルなどラテンアメリカでの活躍について約半分の頁数を費やして書かれている。

291) 星 亮一：野口英世の生きかた，215頁。筑摩書房，東京。2004（図235）。ちくま新書505である。「はじめに」は“野口英世が千円札に登場した。”で始まっているし，カバーや帯にも千円札が出てくる。血脇守之助についてもかなり記されており，再手術をした近藤次繁教授も出てくる。奥村本の“後期試験の受験者は80人で，合格者は野口らわずか4人”は勘違いで，正しくは

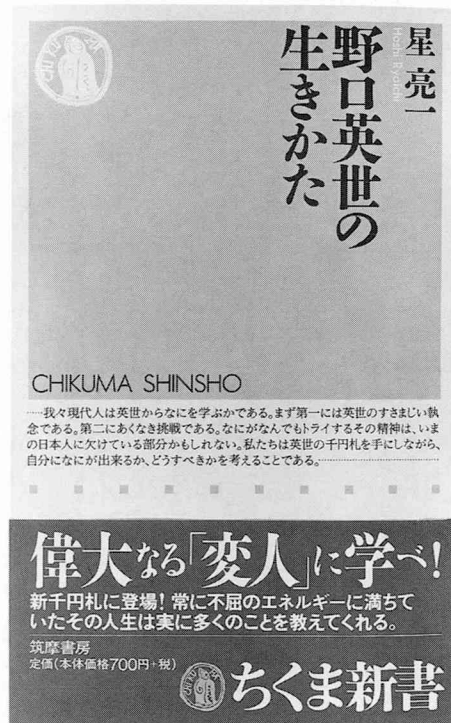


図235：星 亮一：野口英世の生きかた。筑摩書房，2004（カバー・帯）



図236：井出孫六：野口英世，岩波書店，2004
(カバー・帯)

“出願者総数は1219名で，受験者は1084名，合格者は224名だった.”とある。

292)井出孫六：野口英世，212頁．岩波書店，東京，2004（図236）．「岩波ジュニア新書472」である．著者は1974年に「非英雄伝」でN博士（野口のこと）を書いている（第1報の49）と図51で紹介済）が，本書もほぼ正確で読みやすい．“後期試験の競争率は5.4倍，224名の合格者のなかに野口清作の名もあった.”とある．最後頁の「主な参考文献」の中の「今ふたたび 野口英世」は“自主出版”となっているが“愛文書林”の間違いである．なお蛇足ながら新千円札についてはどこにも出てこない．

293)野口英世と東京歯科大学展．10頁．東京歯科大学，東京，2004（図237）．平成16年10月31日～11月6日，11月1日に野口英世の新千円札が発行されるのを記念して東京歯科大学水道橋校舎で開催された際のパンフレットである．多くの貴重な写真によって野口と血脇守之助を主とする東京歯科大学との関係が示されている．

294)野口英世と東京歯科大学．58頁．東京歯科大学，東京，2005（図238）．前記「野口英世と東京歯科大学展」の際の各挨拶文，式典・懇親会・



図237：野口英世と東京歯科大学展．東京歯科大学，2004

展示会場・展示品・記念講演会の写真，高添一郎：記念講演の内容記録，前記パンフレットの再録，高添一郎：野口英世の研究業績などから構成されている．本書は東京歯科大学同窓会会員全員に配布された．

295)秋本 治（原作）・下山馬虎（漫画）・五島慎太郎（シナリオ）・井出孫六（監修）：野口英世，205頁．集英社，東京，2004（図239）．“満点人物伝シリーズ・こちら葛飾区亀有公園前派出所両さんの”の一つである．漫画ではあるが登場する多くのドクター達の絵はよく似ている．後期試験の“受験者1219人に対し合格者224人”と記されている（75頁）が，前者の数は出願者であって，受験者は1084人である（本報の290）参照）．したがって，291)井出：野口英世の“競争率，5.4倍”（72頁）は実際には若干低くなって“約5倍”（正確には4.9倍）になる．

野口英世の葉書

野口英世の絵葉書は，戦前・戦後を通じて，かなり発行になっており，戦前のものについては，第2報で紹介した．福島県猪苗代町にある野口の



図238：野口英世と東京歯科大学。東京歯科大学，2005



図239：下山馬虎 他：野口英世，集英社，2005（カバー）

生家が復元されたのを記念して，官製はがきに加刷された“記念はがき”が1984年（昭和59年）11月9日に発行されているので紹介しておきたい。図240がそれで，3種あり初日印が押してある。左上はケースである。野口の写真はいずれも新千円札になったものと同じである。

野口英世のテレホンカード

野口英世のテレホンカードは，第1報において2種（図83），第4報で3種（図194～196）計5種を記載したが，本報では，一挙に5種を紹介する（図241）。東京都新宿区の野口英世記念会から，セットで販売されたものである。これにも新千円札になった写真がある。

あとがき

本報では野口英世関連の伝記類37種40冊を記載した。これらを第5報までの254種274冊と合計すると291種314冊になる。これらは全て松本歯科大学図書館に保管されることになった。今回は葉書とテレホンカードも紹介したが，追加すべき野口英世の新切手は発行にならなかった。

最後にご協力戴いた神奈川歯科大学 中村澄夫教授，野口英世記念会 関山英夫氏，小暮葉満子氏，斎川正郎氏に感謝の意を表する。

参考文献

- 1) 矢ヶ崎 康，加藤倉三，枝 重夫（1987）松本歯科大学所蔵の野口英世の伝記。松本歯学 **13**：1-34.
- 2) 矢ヶ崎 康，加藤倉三，枝 重夫（1989）松本歯科大学所蔵の野口英世の伝記（補遺）。松本歯学 **15**：217-31.
- 3) 矢ヶ崎 康，加藤倉三，枝 重夫（1994）松本歯科大学所蔵の野口英世の伝記（第3報）。松本歯学 **20**：80-99.
- 4) 矢ヶ崎 康，枝 重夫（1997）松本歯科大学所蔵の野口英世の伝記（第4報）。松本歯学 **23**：194-210.
- 5) 矢ヶ崎 康，枝 重夫（2000）松本歯科大学所蔵の野口英世の伝記（第5報）。松本歯学 **26**：137-45.

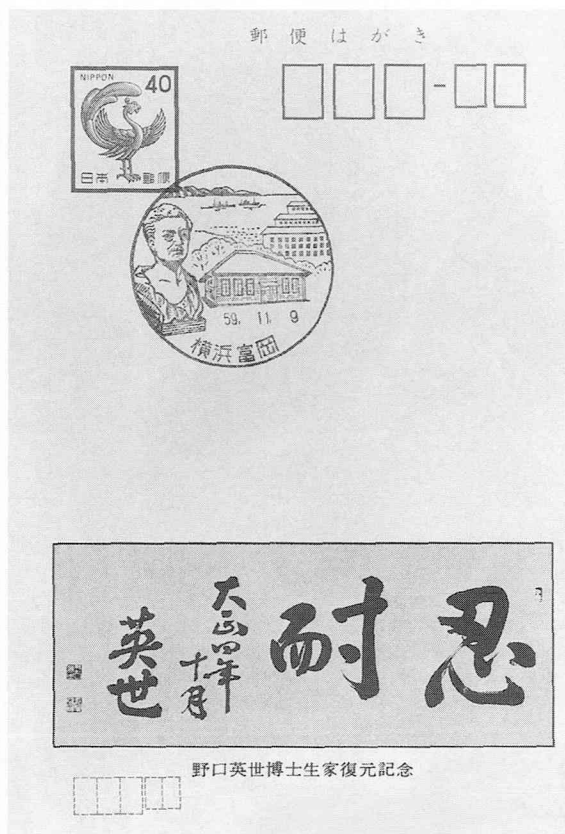


図240：野口英世の絵入官製はがき，1984
(初日印付，左上はケース)



図241：野口英世のテレホンカード5種